

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 信 仰	(ふりがな) しんこう	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	山御講、山神講		
伝承地域	飯舘村大倉 (村一円)		
由来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 講とは、もともと宗教上の目的を達成するために、信仰を同じくする者が寄り合っ て結成した信仰集団。更に頼母子講や無尽講など経済的互助の集まりへと変遷した。		
内容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) 山御講は、賄いなど全てを男小生だけで行った。 旧暦1月17日と旧10月17日の年2回、講員が宿に集まり、山仕事の無事を念ず る講で、組毎に講を構成している。当日、集落毎に祭祀している山の神の祠に、講 事に先だって、組の代表が神饌、蠟燭を供え、山仕事で怪我のないように一同で祈 願し宿に戻る。宿の床の間には、山の神の軸物をかけ、講員の数だけ餅を丸めてオ ブク(お福)として供え、その他に、お頭付きの生魚2匹、野菜などを供える。オ ブクは持ち帰り神棚に供え、後に家族一同でいただく。この講では、一升餅を食べ るものとし、残すことは許されない。古くは、臼を洗った水までも飲んだという。佐 須の山津見神社の秋の例祭には、講員の中から輪番で2、3名が参詣に出掛け、神 札を受けてきて講員に配る。明治末頃まで、たくさん茶屋が立ち、夜を徹して遊ん だと言うぐらい賑わった。山御講は村内のほとんどの地区にあり、戸主の集まりと して地域の結びつきを強めるための大きな役割を果たしていた。		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	飯舘村教育委員会		電話0244-42-1611

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)		※顔写真がありま したら、コピーか電 子ファイルをご恵 与願います。(貼り 付けずに、名前がわ かるようにして同 封ください。)
	性別・年齢 生年月日	男 ・ 女 歳 明治・大正・昭和・平成 年 月 日 生	
	住所・電話	〒 電話	
	職 業		
本 団	団体名 (ふりがな)		

代表者氏名（ふりがな）	
団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日
問い合わせ先	電話

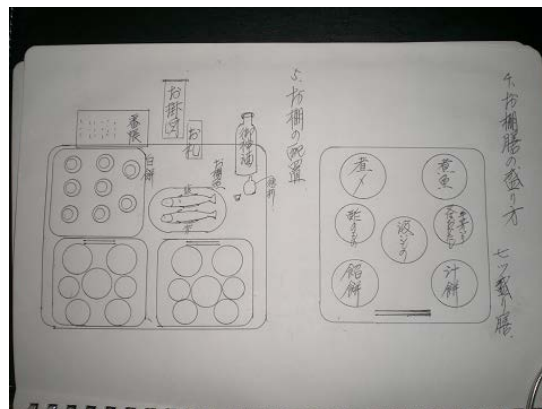
【フリーフォーマット】

キーワード

<山神様へのお供え>



(飯舘村教育委員会)



(飯舘村教育委員会)